

「第2期 士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の評価・検証（総括）

1. 目標人口について

「第1期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「第2期総合戦略」）」は、第1期総合戦略から取り組んできた「農業未来都市創造」「合宿の聖地創造」に加えて、新たに「まちの未来創造」を重点プロジェクトとして位置づけし、2026年の目標人口を17,800人と展望していましたが、本市の人口は本年6月末現在で16,223人となり、2026年の目標人口を下回る状況となりました。

目標人口	目標値（2026年）	2025年7月末現在
	17,800人	16,223人

2. 各重点プロジェクトの取り組みについて

（1）まちの未来創造

本重点プロジェクトでは、基本目標である「時代に合ったまち、機能的で持続可能なコンパクトタウン」をめざすため、移住・定住や広域観光の強化、本市の羊や合宿などの個性を生かした取り組み等により、経済活性化と交流人口の拡大などを進めました。

達成すべき数値目標では、「合計特殊出生率」「交流人口」の2項目を設定しており、本市の「合計特殊出生率」は、目標数値である1.5には達しなかった一方、全国平均である1.20を上回る結果となりました。

また、「交流人口」は、3年度以降、目標数値である460,000人（8年度）を上回る状況が継続されており、前半は新型コロナウイルス感染症による影響があったものの、「まちなか交流プラザ（道の駅）」の開設や広域連携による観光振興の取り組み等によるものと考えます。

重要業績評価指標（KPI）である13項目は、例年、その達成状況や課題などを検証したなかで、事業の実施に取り組んでおり、直近（6年度）の実績では、達成が8件（61%）、概ね達成が1件（8%）、未達成が4件（31%）となっています。

数値目標	基準値	目標値 (R8年度)	実績 (R6年度)
合計特殊出生率	1.36（H24） 全国平均 1.42（H30）	1.5 全国平均以上	1.35（H30～R4） 全国平均 1.20（R5）
交流人口	334,312人（H30）	460,000人/年	520,497人

（2）農業未来都市創造

本重点プロジェクトでは、基本目標である「持続可能な足腰の強い農業・農村」をめざすため、生産基盤の整備や担い手対策、サフォーク羊を生かした取り組み等により、持続可能な農業・農村づくりを進めました。

達成すべき数値目標では、「農家戸数」「成雌めん羊飼養頭数」の2項目を設定しています。「農家

戸数」は、令和6年度時点で442戸となっており、目標値をやや下回る結果となる一方で、重要業績評価指標（KPI）である「新規就農者確保数」は、2～8年度までに延35人の目標値に対して、6年度末時点で延41人となっており、新規就農者の確保が進んでいます。

また、「成雌めん羊飼養頭数」は、6年度時点で695頭となり、目標値を下回る結果となっていますが、「飼養技術研修会に参加する生産者数」「新規めん羊飼養者数」などのKPIは目標値を達成しており、地域おこし協力隊の退任後、市内のめん羊飼養法人に就労する等の成果があります。

重要業績評価指標（KPI）は、直近（令和6年度）の実績では、達成が4件（57%）、概ね達成が1件（14%）、未達成が2件（29%）となっています。

数値目標	基準値 H30年度	目標値 (R8年度)	実績 (R6年度)
農家戸数	585戸	450戸	442戸
成雌めん羊飼養頭数	614頭	1,000頭	695頭

（3）合宿の聖地創造

本重点プロジェクトでは、合宿の受け入れ態勢や招致活動、スポーツイベントの充実などより、基本目標である「合宿の聖地」をめざす取り組みを進めました。

達成すべき数値目標では、「合宿者数」「招致チーム数」の2項目を設定しており、いずれの項目についても、目標値（8年度）を下回る結果となりました。6年度は、朝日三望台シャンツェの改修による大会の未開催等の影響もありましたが、新型コロナウィルス感染症の収束以降、徐々に合宿者数が回復している状況にあります。さらには、トップセールスによる招致活動の拡大や、三望台シャンツェ・陸上競技場の改修などの受け入れ態勢の充実も進めています。

重要業績評価指標（KPI）は、直近（令和6年度）の実績では、いずれの項目でも未達成となっています。

数値目標	基準値	目標値 (R8年度)	実績
合宿者数	延24,223人	延24,900人	延18,827人（R6） 延21,177人（R5）
招致チーム数	延487チーム	延500チーム	延351チーム（R6） 延415チーム（R5）

3. 企業版ふるさと納税について

本市の総合戦略の取り組みに対する寄附として企業版ふるさと納税制度を活用しています。

近年は、特にトップセールスとして寄附件数・金額の増加に向けた取り組みも進めるなかで、件数・金額ともに増加傾向となっています。寄附実績がある4年度から6年度までに、延べ27事業者から、16,000万円を超える額を寄附いただいており、寄附金の活用事業についても、ハーフマラソン大会開催や農業担い手支援、移住定住など、各重点プロジェクトの推進に活用しています。